

■研究・実践の課題（テーマ）

実務者のための栄養ケアプロセス研修会

■主任研究者 塚原丘美

■共同研究者 立花詠子、畠山桂吾

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

下記 2 つの研修会を実施した。

1. 実践栄養ケア研究会、名古屋学芸大学 健康・栄養研究所「実務者のための NCP 研修会」
合同研修会

テーマ：近未来の病院管理栄養士像を考える

【目的】本研修会の目的は、将来の管理栄養士像を考えスキルアップを図るだけでなく、それぞれが将来ビジョンを定め、どのような能力を身に付けていくのか考えるきっかけとなる事、また、様々な立場の管理栄養士と議論する中で、同職種間でのネットワーク構築に繋げることである。

【方法】コロナ禍を考慮し、オンラインでの開催とすることとなった。1 日目は「実践栄養ケア研究会」主催で病院勤務の卒業生と在学生を対象に研修会を行い、2 日目は「実務者のための栄養管理プロセス研修会」主催で病院勤務の管理栄養士を対象とした研修会を行った。両日も、講師として日本栄養士会常任理事である原純也先生をお招きすることができた。

9 月 26 日（土） 実践栄養ケア研修会

14:00 開会

14:10-14:55 卒業生講演 1、2、3

14:55-15:15 ディスカッション

15:15-16:35 特別講演「診療報酬と病院栄養士の将来ビジョン」

16:35-17:30 交流会（Zoom を用いた）

17:30 閉会

9 月 27 日（日） 実務者のための栄養管理プロセス研修会

9:30 開会

9:40-12:20 ワークショップ「将来ビジョン 求められる栄養士像 ～偉人から学ぶ～」

12:30 閉会

【結果・考察】

参加者は、1日目は約50名、2日目は10名であった。開催1ヶ月前にオンライン開催へ変更することとしたため、対面で希望していた参加者の減少があった。初めてのオンライン形式での開催となったが、参加者からはおおむね好評であった。

アンケートより、本研修会の目的達成、また各自の目標達成に寄与したことが分かった。研修前後による理解度の変化からも、本研修会の意義があったと考えられる。自由記載から「2040年への構想、自分たちがこれから何をすることが、管理栄養士の将来に影響するのか改めて考え直す機会となりました。」「自分の将来を決める時期にとっても良い交流会だったと思う。先輩方の話を聞いて自分の中のモチベーションがあがった」「今回のやり方は時代にも則しており既に良い方法だったと思います。webでの参加が困難な方もいたことから、オンラインとオフライン(会場)のミックスが出来れば参加者もより増えるのではないかと思います」など、学生と卒業生ともに有意義な会となったことが分かった。卒業教育として研究所のサポートがあることは珍しく、有意義であるため今後の開催も望まれる。

2. 名古屋学芸大学 健康・栄養研究所「実務者のためのNCP研修会」リーダー研修会

【目的】これまでの名古屋学芸大学 健康・栄養研究所「実務者のためのNCP研修会」は、開催ごとに方法やテーマを変え、内容を決めるのに時間を要することが多かった。そこで、この「実務者のためのNCP研修会」を続けていくにあたり、今後5か年の計画を立案するために、様々な研修会のやり方を学習し、意見交換を兼ねた研修会とする。

【方法】日時：2020年11月21日11時～15時 場所：ウインクあいち 1306室

11:00 受付

11:15～12:30 研修会 「zoomの活用方法について」 講師：畠山桂吾氏

12:30～ 休憩(昼食)

13:30～14:50 各発表 および 意見交換会

15:00 閉会

【結果・考察】

今後の研修会の方針は下記となった。

- ・場所は名古屋学芸大学名城医療キャンパスとし、1日開催(途中参加・退場可)とする。
- ・午前：ベーシックトレーニング と 午後：分野別ワークショップ とする。
- ・次回のベーシックトレーニングのテーマは「生理学・病態・フィジカルアセスメントから栄養アセスメント・栄養療法に繋げる」とする。

・分野別ワークショップは以下の3分野とし、毎年、担当者がテーマを考える。

- ①急性期（ICU、術後、輸液、がん、NST）
- ②慢性期（栄養指導、リハビリテーション栄養、給食管理）
- ③高齢者（フレイル、嚥下障害、認知症、サルコペニア、重度要介護）

これまでのNCP研修会に何度も参加した病院管理栄養士に、これからの開催スタッフとなるコアメンバー（6名）として集まり、研修会等のやり方や参加者が集まるテーマ等について活発な意見交換ができた。今後の研修会の方針についてまとめたため、今後は計画的に開催していくことが可能となった。